

<全体分析>

試験時間 2科目で120分

解答形式

マーク, 計算, 記述

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 大問2と3が減少した。

難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

難しい問題は少ないが, 計算を伴う問題が多く, 120/2分では時間的な余裕はない。

新課程を踏まえた出題

〔Ⅱ〕問3 イオン反応式の代わりにイオンを含む反応式を使っていた。

〔Ⅱ〕問7 反応熱や反応エンタルピーの語を使わず, 反応で出入りする熱量の絶対値で出題されていた。

その他トピックス

例年に比べて, 正誤判定の問題が増えた。

〔Ⅰ〕(10) ポリカーボネート, 〔Ⅲ〕問8 ミオグロビンの一部の教科書には記載がない。

〔Ⅲ〕2022年のノーベル化学賞であるクリックケミストリーが出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔Ⅰ〕	マーク 計算	小問集合	化学基礎 化学	(1) 塩素分子とそれに含まれる中性子の数 (2) 電子対の反発と分子の形 (3) 限界イオン半径比 (4) 蒸気圧と液柱の圧力 (5) 塩酸のpH (6) 鉛蓄電池 (7) 芳香族化合物の性質 (8) 平衡の移動, 反応速度 (9) アミンの塩基性の強弱, アニリンの検出反応 (10) ポリカーボネート樹脂	標準 やや易 標準 標準 標準 標準 やや易 やや易 標準 標準
〔Ⅱ〕	マーク 記述 計算	無機・理論・有機	化学	文明の発展とものづくり・技術開発 天然ガスの性質, 水性ガスの製法, 化学吸収法, 金属の製法・性質, 電解精錬, ケイ素とその化合物の製法・性質, 化学反応とエネルギー, 逆浸透法, 環境問題, リサイクル	標準
〔Ⅲ〕	マーク 記述 計算	有機・理論	化学	クリックケミストリー ノーベル化学賞, 付加環化反応, 炭化水素の性質, 合成ゴム, 環状アルキン, 塩化ベンゼンジアゾニウムの分解, クリック反応の反応速度, タンパク質の構造, テトラジンの構造決定	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

ほぼ全範囲から出題されるので、苦手分野をなくし、幅広く学習する必要がある。基礎知識を確実に身につけ、標準的な問題の演習を十分に行うこと。また、計算問題が多いので、効率よく計算する訓練をしておくこと。酸化還元, 反応速度は頻出である。